

令和2年度 学校評価報告

草加市立栄中学校
(令和3年2月1日作成)

1 学校教育目標	
○校訓 「自主」「自律」「親和」「協力」 ○学校教育目標 ・自ら学び考え行動する生徒 ・豊かな心を持ち思いやりのある生徒 ・健康でたくましい生徒 ○目指す学校像 ・一人一人がかけがえのない存在として大切にされ、人権や生命が尊重される学校 ・生徒も教職員も元気で明るく活力のある学校	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
○重点目標 ・「いいところ探しの学校」として「一人一人の良さを認め、伸ばし、育てる教育の推進」 ○努力目標 ・わかる授業を実践し、学力の向上を図る。 ・感動の共有場面を持ち、学校の一体感を醸成する。	成果 ○道徳の授業や学びを支える5か条を意識した授業実践が定着してきた。 課題 ●教職員同士が学び合い、授業力の向上を図る取組を推進する必要がある。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営目標、方針 校務分掌組織 適所への適材配置 職員会議等の運営 予算の執行・決算、監査等 	A	○教職員一人一人が目指す学校像を意識し、組織的に学校運営に携わった。 ●校務分掌組織の見直しと活性化を図る。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> 研究組織、計画、実施 校内研修の推進 授業改善への取組 校外研修会への参加 人材育成 	B	○ICTを活用した授業が増え、より分かる授業の実践へとつなげることができた。 ●校外研修会等の開催が減り、研修報告等で共有することができず、十分な研修とはならなかった。
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 保健計画、安全計画 環境衛生の管理 健康観察、安全点検 緊急事態発生時の対応 危機管理マニュアルの作成・活用 	B	○コロナ禍の中、今までとは違う対応が多かったが、教職員が協力し生徒の健康管理を行うことができた。 ●小学校との合同訓練等の計画を進める必要がある。
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の管理、保護 施設設備の管理と有効利用 	A	○校内規定による個人情報管理や校務支援システムによる情報管理を行うことができた。 ●今まで以上に危機感を持って取り組む。
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報の発信 学校公開の実施 学校運営協議会の推進 地域、校種間連携 PTA活動の活性化 	B	○学校だよりや学校HPを使い、生徒・保護者・地域に情報発信することができた。 ●学校公開が限定的なものになり、地域連携、学校運営協議会の推進について取り組む必要がある。
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> 目指す子ども像の共有 15年間を通じたカリキュラムの編成 一貫教育推進のための組織づくり 	B	○児童・生徒の交流については難しかったが、教員間では組織的に内容検討をすることができた。 ●コロナ禍にあってもできる内容の推進を図る。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<p>○保護者による学校評価の数値から学校教育目標や方針の保護者理解が進んだと考えられる。</p> <p>●コロナ対応を含めた教育計画を次年度当初までに策定する。</p>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<p>○各教科でICTを活用する授業が行われるなどわかる授業へ改善が進んでいる。</p> <p>●タブレットを活用し、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善に学校全体で取り組む。</p>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<p>○指導訪問での指導をもとに各学年で道徳授業の改善に取り組むことができた。</p> <p>●各教科との関連を図り実践力の育成を図る。</p>
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 生徒会活動 	B	<p>○活動に制限がある中、実施方法や内容を工夫しながら行うことができた。</p> <p>●活動のねらいを考え、実施について検討を行っていく。</p>
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<p>○計画に大きな変更が必要となったが、できる内容を検討し、指導を行った。</p> <p>●タブレットを活用するなど、授業についての研修を図る。</p>
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、生徒理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<p>○生徒指導委員会・教育相談部会などで組織的に対応することができた。</p> <p>●いじめ・不登校生徒への対応についての方針や対策の確認を行う。</p>
	⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 組織的なキャリア教育 指導方法の工夫と改善 啓発的経験の充実 進路情報の収集・活用 職場体験活動 	B	<p>○キャリアパスポートの活用をスタートさせることができた。</p> <p>●諸活動のキャリア教育への位置づけを図る。</p>
	⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	B	<p>○すべての教員が関わりながら諸機関との連携を図り、課題の解決を図った。</p> <p>●特別支援教育の考えをすべての教育活動に生かすよう研修を進める。</p>
	⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	B	<p>○司書教諭と学校司書の連携により季節感のある図書館整備がすすめられた。</p> <p>●授業での図書館の活用や読書活動の推進を一層図る。</p>
	⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<p>○ICT機器を活用し、効果的な教育実践を進めることができた。</p> <p>●タブレットの導入に伴い、一層の情報モラル教育を進める必要がある。</p>
	⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<p>○人権作文や人権標語の取組を通し人権への意識を高めることができています。</p> <p>●各教科の内容を人権教育に確実に位置付け、人権感覚を育成していく。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色 ある 学校 づく り	①地域に開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 外部人材の活用 保護者との連携 関係諸機関との連携 	B	<p>○コロナ禍で難しい中だったが、HPや学校だより等で保護者との理解を図った結果、学校評価結果で前年を上回った。</p> <p>●より双方向での連携を図るとともに、外部人材の活用を行う。</p>
	②幼保小中一貫教育	<ul style="list-style-type: none"> 15年間の系統的教育の実施 異校種間交流の推進 	B	<p>○様々な制約の生じる中、できる内容を検討・調整を図り実施した。</p> <p>●来年度の方向性を確認するとともに、読書活動推進について協議を行う。</p>
	③自己肯定感・有用感を高める教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 授業等での計画的な実施 互いを認めあうことのできる学級づくり、諸活動の推進 	B	<p>○生徒自身が活動を振り返る自己評価で内容のほとんどが前年の数値を上回ることができた。</p> <p>●各教科の年間計画の中で取組について位置づけをし推進を図る。</p>

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

○生徒指導委員会や教育相談部会で情報共有を図り、早期発見・早期解決・事後の見守りを行ったことにより、生徒は概ね落ち着いた学校生活を送ることができていた。

○コロナ禍にあり、通常の学校生活を送ることは難しい状況にあったが、保護者の理解を得ながら、どうすればできるかを考え活動を行うことができた。

○「草加っ子の学びを支える5か条を意識するとともに、積極的にICTを活用した授業を実施し、わかる授業の実践をすすめることができた。

○学校公開を限定したが、学校だより、学年・学級通信、HPを通じて学校の情報を発信することで保護者・地域からの理解をある程度得ることができた。

○生徒自身が自分たちの生活を振り返り、高評価をしていたことから、行事等ができない中であつたが、有意義な学校生活を送らせることができたと考えられる。

○ローテーション道德の実施により「特別の教科 道德」について積極的な授業実践を進めることができた。

6 次年度の改善策

○各行事や取組の目的などを再確認し、実施にかかる準備と内容、効果について検討を行うことで、教育活動の精選を図る。

○人事異動等により、本校に長く勤務していた教員が減少することが見込まれるため、資料の共有化を図り、より組織的にチーム力を上げて学校運営を実施する必要がある。

○授業でのタブレット端末の使用を効果的に行い、生徒の興味関心を高め学習効果を上げるための研修等を進めるとともに、WI-FI環境等が不十分な家庭等への対応についても要望をすすめる。

○学校全体で自己肯定感・有用感を高める取組について、各教科等での位置づけを行う。

○各教科・分掌等の組織で学校評価の結果分析を実施し、次年度の取組の改善について検討し提案に生かすことで内容の向上を図る。

○教科等を越えて授業研究や特別支援教育の視点での教材作り等を進め、学力の向上を図る。

○生徒指導委員会・教育相談部会・いじめ対策会議等で生徒指導・不登校対応・いじめ撲滅等に組織的に取り組む。

○より安全・安心な学校づくりをすすめるとともに、施設・設備面での改善を要望する。